

海洋教育パイオニアスクールプログラム

Ocean Education Pioneer School Program



海洋教育パイオニアスクールプログラム レポート2025 VISION & ACTION

心に海を抱く

地球表面の約7割を占める海は、人を含む全ての生物が生きていける空間として、地球を維持しています。しかし、人の及ぼす影響に対する海の包容力が限界を迎えようとしている今、私たち一人ひとりが、海そのものに関する知識と体験に基づき、自分たちと海との関係を絶えず意識し、海が抱える課題を自分ごととして捉え、地球規模の視野で主体的に海にかかわることができるようになる必要があります。

海に支えられた私たちの生活を守り未来に引き継いでいくための知識と体験を得る学びとして、海洋教育が求められているのです。

海洋教育パイオニアスクールプログラムは、学校や教育委員会等に対する支援を通じて、学校での海洋教育の面的な広がりと質的な向上を図ることを目的としています。

海洋教育の4つのキーワード



海洋教育は未来を支える学校教育のテーマです

人類は、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題となっています。

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進します。

「小学校における海洋教育の普及推進に関する提言」初等教育における海洋教育の普及推進に関する研究会、2008



2025年度は、単元開発部門において113校、地域展開部門において10地域92校、計205校の海に関する学習に対して助成を行いました。そのうち50校は、2025年度に初めて支援させていただいた学校です。2016～2025年度の合計では、延べ校数1,691校(実校数46都道府県628校)、約21万人の子どもたちの海の学びを支援しました。

地域展開部門においては、2023年度からの7地域(羅臼町・洋野町・鶴岡市・気仙沼市・君津市・阪南市・与論町)が最終年度を迎え、3地域(江田島市・周防大島町・玄海町)は2年目の採択となりました。

各学校の実施概要などは採択校一覧に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

spf.org/pioneerschool/program/school.html?list_year=2025



本プログラム採択校をはじめ、全国の学校・教育委員会・大学・社会教育施設・関連団体を訪問し、活動の視察や実践に関するヒアリングを実施しました。また、海洋や教育に関する国内外のイベントに多数参加するとともに、学会等での発表も行いました。

現地調査の主な目的は、(1)採択校の活動状況の視察および成果・課題等の把握、(2)学校や地域への理解を深め、海洋教育の意義や課題を分析すること、(3)各学校・地域の教育事情を踏まえた海洋教育推進の提案を行うこと、(4)海洋教育に取り組む教職員や関係団体との交流を通じてネットワークを構築すること、などです。

これらの活動を通じて、海の学びがもたらす多様な効果や課題について現場の声を収集し、海洋教育の実践現場に対するより効果的な支援の在り方を検討しました。また、多様な主体とのネットワークを拡充することで、海洋教育への関心と理解の広がりを促し、海洋教育文化の形成・発展に寄与することを目指しています。



学校		
岩手県	洋野町	岩手県立種市高等学校
宮城県	気仙沼市	気仙沼市立面瀬小学校
山形県	鶴岡市	鶴岡市立榎引南小学校、鶴岡市立湯野浜小学校
千葉県	君津市	君津市立西小学校
東京都	目黒区	駒場東邦中学校・高等学校
東京都	豊島区	立教小学校
東京都	小金井市	東京学芸大学附属小金井小学校
東京都	東大和市	東大和市立第三中学校
東京都	大島町	東京都立大島海洋国際高等学校
大阪府	阪南市	阪南市立朝日小学校
山口県	周防大島町	周防大島町立東小学校、周防大島町立沖浦小学校
佐賀県	玄海町	玄海みらい学園
鹿児島県	与論町	鹿児島県立与論高等学校
沖縄県	竹富町	竹富町立波照間小中学校、竹富町立大原中学校

教育委員会		
北海道	羅臼町	羅臼町教育委員会
岩手県	洋野町	洋野町教育委員会
宮城県	気仙沼市	気仙沼市教育委員会
佐賀県	玄海町	玄海町教育委員会

大学		
東京都	港区	東京海洋大学 水産サステナビリティ寄附講座
東京都	日野市	明星大学 データサイエンス学環
神奈川県	横浜市	横浜国立大学 教育学部
石川県	金沢市	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系
高知県	南国市	高知大学 海洋コア国際研究所

社会教育施設		
北海道	斜里町	知床世界遺産センター
北海道	標津町	標津サモン科学館
北海道	羅臼町	羅臼町郷土資料館、知床羅臼ビジターセンター
北海道	羅臼町	世界自然遺産 知床国立公園 ルサフィールドハウス
岩手県	久慈市	久慈地下水族科学館もぐらんぴあ
岩手県	大槌町	おしゃっち 大槌町文化交流センター・大槌町立図書館
岩手県	大槌町	おつち海の勉強室
岩手県	山田町	岩手県立陸中海岸青少年の家、山田町立鯨と海の科学館
岩手県	山田町	山田町まちなか交流センター
岩手県	洋野町	種市B&G海洋センター、種市歴史民俗資料館
千葉県	君津市	君津市漁業資料館
広島県	呉市	てつのくじら館
山口県	周防大島町	周防大島町B&G海洋センター
鹿児島県	与論町	渚の交番Muuru、与論町B&G海洋センター艇庫

イベント		
宮城県	気仙沼市	気仙沼ESD／RCE円卓会議2025、第15回 海洋教育こどもサミット in 東北
宮城県	気仙沼市	第1回・第2回 気仙沼市海洋教育推進委員会・海洋教育推進連絡会
宮城県	気仙沼市	令和7年度東北ESD/SDGsフォーラム「ESD推進に向けた教育委員会の役割を探る」
山形県	山形市	第34回 日本生活科・総合学習教育学会 全国大会山形大会
山形県	鶴岡市	国立科学博物館 教員のための博物館の日
山形県	鶴岡市	山形県海洋教育研究協議会、第2回 海洋教育研究会 総会・研修会
千葉県	千葉市	Japan Geoscience Union Meeting 2025
千葉県	木更津市	盤洲干潟海の探究プログラム
千葉県	南房総市	海辺の環境教育フォーラム 2025 in 南房総
東京都	港区	アジア海洋教育者学会2025、全国「海の学び」フォーラム
東京都	港区	日本海事代理士会創立50周年記念フォーラム「海の安全 ～未来へつなぐ安心航路～」
東京都	港区	日本海洋教育学会 第3回大会、Ocean Decade 5th Foundations Dialogue
東京都	江東区	EDIX東京2025
愛知県	名古屋市長	第58回 全国小学校理科研究協議会研究大会 愛知大会
大阪府	大阪市	大阪セーリングエキスポ2025
大阪府	阪南市	阪南市教育委員会 海洋教育研修会、北京大学現代日本研究センター 博士課程 訪日研修
奈良県	奈良市長	ESD国際シンポジウム in Nara 2026
和歌山県	和歌山市	GEAR5.0 農水 サマーキャンプ in 和歌山、和歌サミット
広島県	呉市長	海洋文化都市くれ海博2025×海神祭
徳島県	牟岐市長	徳島大学 学生PBL活用海洋教育プログラム検討授業 成果発表報告会
福岡県	福岡市長	博多海の会議
佐賀県	唐津市長	海洋環境国際シンポジウム みんなの海 国際会議 vol.2
佐賀県	玄海町	玄海町海洋教育こどもサミット、第1回・第2回 玄海町海洋教育推進協議会
鹿児島県	与論町	第3回 海洋教育魅力化セミナー
台湾	高雄市長	International Conference on Transdisciplinary Solutions for Ocean Challenges (ICTSOC)
台湾	高雄市長	International Pacific Marine Educator Network(IPMEN) 2025 Conference
中国	厦門市長	APEC Workshop on Blue Citizen Communities for Ocean Literate Society
フランス	パリ市長	IOC Group of Experts on Ocean Literacy in-person meeting
フランス	ニース市長	第3回 国連海洋会議
オンライン		ESDを踏まえた海洋教育オンライントークイベント～里海づくりの未来に向けて～
オンライン		水辺の環境活動フォーラム～水辺を活用した地域の魅力向上に向けて～
オンライン		生活科教育研究会 秋の探究フォーラム2025 第82回定例研究会
オンライン		台湾新北市瑞芳區鼻頭國民小學・玄海みらい学園 オンライン交流会
オンライン		第3回 海洋教育発表会 in 鶴岡
オンライン		第4回 ニッポン学びの海プラットフォーム会合、日本海洋教育学会 My探究 発表会

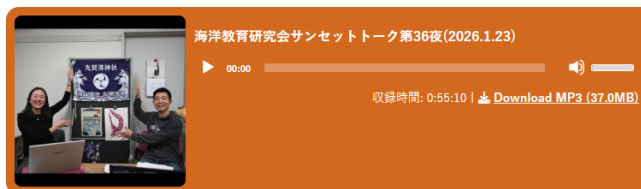
その他		
北海道	斜里町	知床観光船
北海道	標津町	しべつ「海の公園」標津町海浜公園
北海道	羅臼町	相泊漁港、羅臼国後展望塔
岩手県	久慈市	北侍浜野営場・海水プール
岩手県	大槌町	NPO法人おつちのあそび
岩手県	洋野町	ひろの水産会館ウニーク
千葉県	木更津市	盤洲干潟
千葉県	君津市	人見神社、猟師工房ランド
千葉県	富津市	富津干潟
佐賀県	唐津市長	佐賀県ヨットハーバー

海洋教育研究会 シンポジウム2025

本プログラム採択校や地域による様々な活動報告をもとに、議論や意見交換を通して、海洋教育の実践に向け更に理解を深めていただくことを目的とし、【海洋教育研究会】を毎年開催しています。海洋教育に興味・関心のある方々にさまざまな地域の実践を知っていただき、参加者同士のネットワーク構築となるきっかけのひとつとしても考えています。

2025年度は2026年2月23日(月・祝)に笹川平和財団ビル国際会議場において「海洋教育パイオニアスクールの歩みと、共創する海洋教育の未来」と題しシンポジウムを開催いたしました。全国各地から、海洋教育にかかわる関係者94名が一堂に会し、活発な意見交換がなされました。

spf.org/pioneerschool/news/20260223_OEC2025-report.html



回	開催日	ゲスト
第29夜	4/25	船の科学館 梶谷 東輝 さん
第30夜	5/23	海洋教育パイオニアスクールプログラム事務局
第31夜	6/27	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 上席研究員・博士(工学) 諸野 祐樹 さん
第32夜	7/18	帝京平成大学 人文社会学部 准教授 三井 寿哉 さん 笹川平和財団 海洋政策研究所 客員研究員 日置 光久
第33夜	9/26	一般社団法人 探究科学研究所 里 浩彰 さん
第34夜	11/7	君津市教育センター 主査 田仲 永和 さん
第35夜	12/19	Blue Campus のみなさま
第36夜	1/23	一般社団法人 日本サステナブルシーフード協会 代表理事 鈴木 允 さん
第37夜	2/6	九州大学 清野 聡子 さん
第38夜	3/13	国立研究開発法人海洋研究開発機構 海洋STEAM推進課 課長 市原 盛雄 さん

海洋教育研究会サンセットトーク

夕風の1時間で、気軽に意見や情報交換を行うことができる【海洋教育研究会サンセットトーク】を開催しています。参加者の実践の質向上に役立つような場、そして参加者同士のネットワークを広げるきっかけとなるような場を目指しています。

2025年度は本プログラム採択校を含め様々なゲストをお呼びして計10夜開催し、延べ311名の参加登録をいただきました。毎夜、ゲストとの対談では参加者から多くの質問が寄せられ、フリートークでは海洋教育への想いや実践の裏話も交えながら活発な議論がなされました。また、ゲストとの対談部分については、音声のみの事後配信を開始いたしました。当日参加できなかった方にも内容をお届けするとともに、学びを振り返る機会としてご活用いただいています。

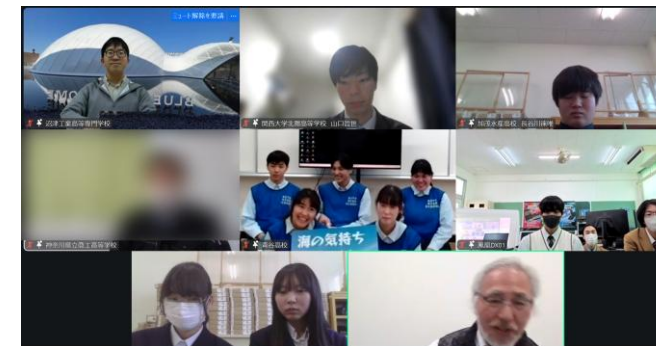
spf.org/pioneerschool/event/OceanEducationConference.html#sst

全国海の学び発表交流会2025

【全国海の学び発表交流会】は、全国の幼児・児童・生徒のみなさんが取り組んでいる海の学びを発表し交流することができる場の創出を目的としています。

2025年度は2026年2月13日(金)にオンラインで開催しました。小学校13校に発表をいただきました。日々の活動の共有や課題への解決策、今後取り組みたい活動など様々な発表がなされ、活発な意見交換が行われました。

学校名	学年	タイトル
認定こども園 龍谷幼稚園	年長	ぎょぎょと研究発表
気仙沼市立鹿折小学校	5年生	世界とつながる ぼくらの海郷学 — 気仙沼の水産業を支える自然と技術 —
気仙沼市立唐桑小学校	6年生	唐桑地区の海洋ごみを減らすために
鳥羽市立鳥羽小学校	5年生	鳥羽の海を未来につなぐ
対馬市立佐須奈小学校	5年生	川から海へとつながる豊かな生きものたちの研究
江田島市立三高小学校	2年生	三高の海で「マイ発見」！海のいきもの見つけたよ!!!
玄海みらい学園	4年生	玄界灘と有明海の違い
希望が丘学園鳳凰高等学校	1年生	地域資源と Meta Quest3を組み合わせたXR ゲーム開発とその活用に関する有効性について
関西大学北陽高等学校	2年生	『高校生がツナグ海と人』— umi(うみ)のカードゲーム —
神奈川県立商工高等学校	3年生	湘南・横浜沿岸における海洋プラスチック調査と ミルワームによるポリスチレン分解実験
山形県立加茂水産高等学校	3年生	発酵質の底層係留によるアカモク苗の食害生物回避方法の検証
沼津工業高等専門学校	5年生	駿河湾の生物多様性と温暖化による深海生物への影響
鳥取県立青谷高校	2年生	劇から始める海の課題解決 ～劇「海の気持ちメーター」をきっかけに～



海洋教育指導資料「理科の学びを海につなぐ」

海洋基本計画には、2025年までに全市町村で海洋教育の実施が目標として掲げられ、国民への海洋の知識の普及啓発促進、それに向けた教材等の充実が明記されています。しかし、小学校および中学校の学習指導要領においては、総則に「現代的な課題」の一つとして海洋が挙げられているものの、各教科の内容は地理や産業に偏っており、地球温暖化や海洋ごみ問題など世界的な課題を抱える海洋の現状を理解するために必要な科学的な記述が不足している状況が続いています。



2025年7月20日(海の日)刊行 A4大型書 128ページ
ISBN: 9784477035529 出版社: 大日本図書 価格: 2,200円(税込)
▶ amzn.asia/d/0aFmfHI2

そこで、小学校理科の指導経験を持つ教員および専門家と大日本図書の協力の下、理科の学びを海に結び付けるための指導案をまとめた本書を出版いたしました。幅広い海洋科学の内容から、海水の性質、海と陸の水循環、光合成、食物連鎖・生態系の4テーマに絞り、3～6年生の内容から11単元を選びました。各単元について、海洋との関連を図った指導の時間を本時とした授業案、学習指導要領には記載されていない発展的な学習、子どもたちの日常生活にまで視野を広げた海洋教育、そして世界的に普及の進むOcean Literacyと単元の学習内容に関する考察をまとめました。

理科の系統的な学びを海への理解に繋ぐ試みは、学校で海洋教育を教科学習の一部に取り入れるときの参考にしていただくだけでなく、総合的な学習の時間において、海を題材に取り上げながら理科との関連性を検討するための参考資料としてお使いいただくことも期待しております。

そうした取組が、子どもたちが自然に触れて「なんでだろう」と思った時に、学んだ知識を活かして真理を考える、一つのきっかけになれるのではと考えております。



【イカ動画シリーズ イカを知ろう!】YouTube プレイリスト

▶ youtube.com/playlist?list=PLY1ZcfpKpMJ707GefCXQ2Uu6BeLBFg1Qv



お家や学校でやってみよう!
スルメイカの解剖
▶ youtu.be/OJ0ROxMVjj4



心臓が3つ? 脳に穴が!?
イカの体のヒミツを徹底解説
▶ youtu.be/FV0lgzTWj1E



イカの生態はナゾだらけ!
理由を知ればもっと面白い!
▶ youtu.be/Z_-E0zqkfUA

アジア海洋教育学会(AMEA)【共催】

笹川平和財団海洋政策研究所は2025年8月5日から6日にかけて、AMEAと「AMEA with ECOPs Ocean Literacy Conference 2025 Japan」を共催しました。AMEAは2015年に設立した学会で、アジア各国で海を教科横断的に学ぶための施策や教材、体験学習の実践事例を共有し、異なる環境下で海を学ぶことの理解を深める場となっています。本会は、AMEA創立10周年を記念し、国連海洋科学の10年の海洋若手研究者プログラムECOPsと共に、世界的に普及が進められている海洋リテラシーに焦点を当てた内容としました。8月5日は笹川平和財団ビル、6日は東京海洋大学で開催され、2日間で国内外から延べ250名近くの参加者が集まりました。



道田豊 UNESCO-IOC議長兼東京大学総長特使の基調講演、東京海洋大学の海街コミュニティスクール(本プログラム採択校の希望が丘学園鳳凰高等学校および福井県立若狭高等学校を含む)によるユースカンファレンスに続き、ポスターセッションでは本プログラム採択校(立命館慶祥高等学校、三重中学校、岡山学芸館高等学校、徳島県立小松島西高等学校、リンデンホール中高等部、対馬市立佐須奈小学校、豊見城市立とよみ小学校)の児童・生徒、過去採択園の保育所のぞみの美術指導者の古田絵理氏、過去採択校の式根島中学校に勤務されていた中里直先生からポスター発表がありました。

国際太平洋海洋教育者ネットワーク(IPMEN)【参加】

台湾高雄市で開催された IPMEN 2025 Conferenceに参加し、IPMENの中心テーマ「伝統知と海洋リテラシー」を踏まえながら、アジア・太平洋域における海洋リテラシー教育の今後の展開を参加者と議論しました。(1)本プログラムで刊行した2024年版と奈須紀幸 東京大学教授監修による1974年版的2つの学研まんが「海のひみつ」のそれぞれに描かれた海洋リテラシーの比較(高倉)、(2)本プログラム採択園のかまいしこども園の新巻きサケ作りを例に、日本の魚食文化の学びと海洋環境の変化との関連付け(小熊)について発表しました。



アジア太平洋経済協力(APEC)【参加】

11月6日から8日にかけて中国廈門で実施されたAPEC Workshop on Blue Citizen Communities for Ocean Literate Societyに参加し、日本の事例として、省庁の海洋教育関連の取組や、本プログラム地域展開部門の地域版海洋リテラシー作成等の事例を示しつつ、国内では海洋リテラシーの普及そのものが不足しており、研究者が一般市民にいかに伝え学校で学ばせていくか等、「Blue Citizen」を目指す以前に様々な課題が存在する現状について発表しました。会期中、廈門雙十中学海沧附属学校东屿校区で、生徒達の海洋リテラシーや海洋文化の学びについての発表や音楽演奏等を視聴した他、海沧湾九号岬の公園では、海洋リテラシーの7つの重要原理を児童と市民が共に学ぶ取組を見学しました。



海の学びの導入に係る課題解決に向けた試み

本プログラム単元開発部門の学校で、特に初めて採択された年度において先生方から指摘されてきた課題の一つに、なぜ海の学びを始めるのかを子どもたちに伝えるための、海の学びの導入に用いる教材の不足がありました。

そこで、先生方が普段の授業の一環で、ほんの1コマでも海洋教育を実践しやすくすることを目的として、ソーシャルサービス社の協力のもと小学校用副教材を開発しました。その際、同社の教材シリーズ「未来クリエイター」（ミラクリ）のシステムを活用し、利用希望の学校へ無償配布する代わりに、利用後は担当教員にアンケート調査へ協力していただきました。

1冊12ページという限られたページ数の中で、低・中・高学年の学習内容に合わせて、海に関連する事項をまとめました。短く端的な記述と印象的なデザインで、子ども（児童）も大人（教員・保護者）も海の学びの楽しさを感じられるよう心掛けました。

2025年6月20日からオンライン配布を開始し、2026年1月末までにアンケートへご回答いただきました。



【低学年用】

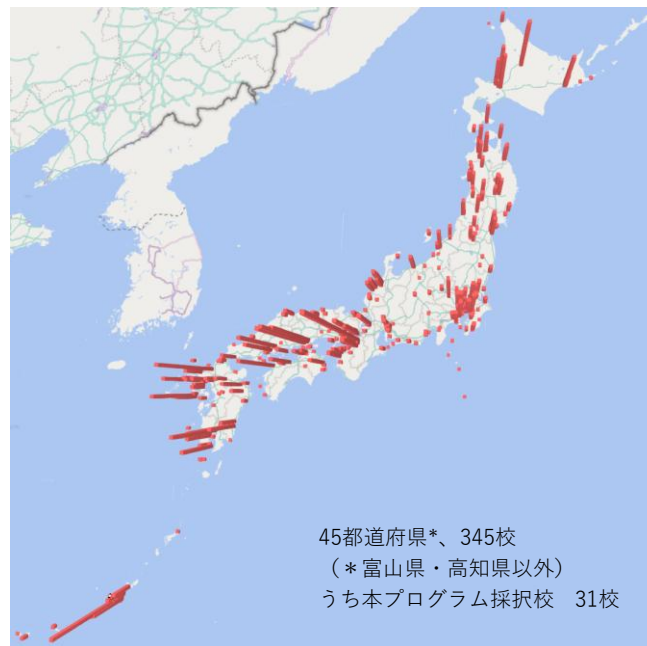


【中学年用】



【高学年用】

生活科もしくは総合的な学習の時間での利用が最も多く、導入向け教材の必要性を8割近い教員から示されておりました。アクセス数は3冊共に7月が最大でしたが、配布開始が直前で



学校別申込数分布（Excel 3Dマップにて作成）

配信状況

配布方法：デジタル配信
のべ67,585名分配信

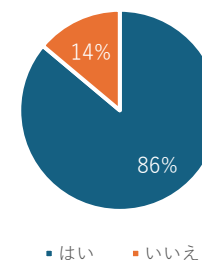
低学年版	238校	21,461名分
中学年版	244校	22,387名分
高学年版	259校	23,737名分

申込パターン

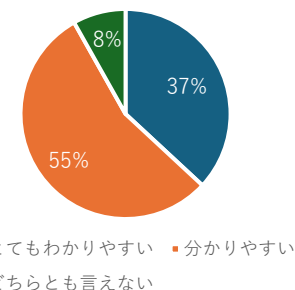
3冊	180校	1冊(低)：36校
2冊(低/中)	9校	1冊(中)：41校
2冊(低/高)	13校	1冊(高)：52校
2冊(中/高)	14校	

授業予定に間に合わなかった、海に持ちだして生き物観察に活用するには紙面の方が良かった、というご指摘も頂きました。今後の開発に活かしたいと考えております。

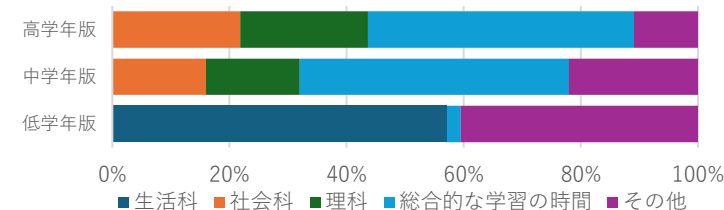
Q1. このデジタル版副教材を授業でご活用いただけましたか



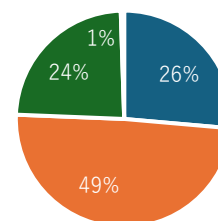
Q3. このデジタル版副教材の内容についてお聞かせください。



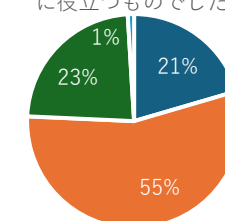
Q2. どの教科でご活用されましたか



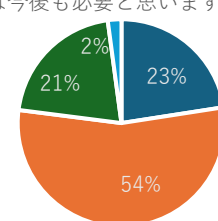
Q4. 児童の反応はいかがでしたか



Q5. この副教材は貴校の海洋教育に役立つものでしたか



Q6. このような海洋教育の副教材は今後も必要と思いますか



■ たいへん興味あり ■ 興味あり ■ どちらともいえない ■ 興味なし

■ 大変役立った ■ 役立った ■ 役立たなかった ■ どちらとも言えない

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ 必要ない

本プログラムのwebサイト等において、プログラムの成果発信や各校・各地域の取り組みの周知、海洋教育の機運を高めることなどを目的として、様々な情報発信を行いました。

▶ spf.org/pioneerschool



採択校・地域の情報、メディア掲載情報

2025年度は、採択校・地域の情報20件(受賞情報や広報誌・関係機関等に掲載された記事)、メディア掲載情報20件(各種メディアに掲載された採択校・地域の活動等)に関する記事を掲載しました。なお、2025年度に確認したメディア記事は、掲載した20件を含め210件にのぼりました。

▶ spf.org/pioneerschool/news/



イベント情報

2025年度は、本プログラム主催のイベント14件、その他の海洋教育に関するイベント10件の情報を掲載しました。各イベントには海洋政策研究所の研究員も関わっています。

▶ spf.org/pioneerschool/event/



お役立ち情報

海洋教育に使える教材や参考文献など様々な情報を掲載しています。

▶ spf.org/pioneerschool/useful/



イベント出展

海洋文化都市くれ海博2025(2025年5月31日・6月1日 広島県呉市)、全国小学校理科研究協議会全国大会 愛知大会(2025年11月20日・21日 愛知県名古屋市)においてブース出展をいたしました。来場者へ本プログラムの取組や成果を紹介するとともに、海洋教育に関する情報交換や新たなネットワークづくりの機会となりました。



海洋教育に関するメールニュース

採択校やイベント参加者等を対象に、イベント情報や助成事業に関わるお知らせ、採択校・地域の情報、メディア掲載情報などを掲載したメールニュースを不定期で配信しています。2025年度は43通配信いたしました。また、2026年3月31日時点の登録アドレス数は1,151件でした。

2025年度の海洋教育パイオニアスクールプログラムでは、205校・10地域への支援を通じて、全国各地で海洋教育の実践が広がりました。そのうち50校は新たに支援を開始した学校であり、各地で海の学びが着実に根づきつつあります。

こうした学校教育での実践を支援するため、理科指導書や解説動画、WEB教材を作成しました。理科指導書では教科教育との接続を図り、解説動画とWEB教材ではわかりやすさや親しみやすさを重視することで、海洋教育を授業に取り入れやすくしています。WEB教材を利用した教員を対象としたアンケートでは、わかりやすいとの評価が9割を超え、今後同様の教材を必要とするとの回答も8割を超えました。この結果からも、教育現場のニーズに即した支援ができたものと考えています。

また、アジア海洋教育学会10周年記念大会を共催し、国内外の実践事例の共有や、研究者・教員・児童生徒の交流を通じて、学び合いとネットワーク形成を促進しました。

このように様々な取組を通じて、海の学びを地域や学校に根づかせること、そしてより広く深い海洋教育の展開を目指した一年となりました。

今後も、海洋をめぐる諸課題の解決に向けて、教育現場の声やニーズを丁寧にくみ取りながら、海洋教育の普及につながる支援を進めてまいります。





巻末言

海洋教育パイオニアスクールプログラムは、地域展開部門で継続中の3地域（江田島市・周防大島町・玄海町）を除いて、2026年3月をもって一旦の区切りを迎えた。10年間に実校数で46都道府県628校（2026年度に地域展開継続の江田島市で2校追加し最終的には630校）に海の学びの支援を行ってきた。コロナ禍の影響で、集団で海に出かけることもはばかれ、一時は採択校数が減少に転じたものの、毎年新規採択校があり、新たな海のカリキュラムが作られてきた。これからも、未知なことの多い海で、子どもたちが深く知ることの楽しさを見出してくれることを願っている。

世界の流れとして、米国海洋教育学会がOcean Literacyの7つの重要原理を公表して20年が過ぎ、国連海洋科学の10年において海洋リテラシー教育が人材育成の重要な柱の一つとなっている。ポルトガル発祥のBlue Schoolは、ヨーロッパを中心に大西洋に面した国々の学校へネットワークを拡張し、現在はマレーシアの学校も加入している。各国・地域で教育システムが異なっている、海を理解し海を守ろうとする学びに共感する学校・教員は着実に増えつつある。

地球規模の海洋課題は、一国だけでも、また一世代だけでも解決できるものではない。日本もまた海洋立国として、世界との協働において中心を為せるよう、当研究所として海洋人材の育成に尽力したい。

笹川平和財団・海洋政策研究所 所長 牧野 光琢

出典等

表紙 写真: 気仙沼市教育委員会

p.1 写真: 御宿町立御宿中学校

p.2 地図: 地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)にて作成

The bathymetric contours are derived from those contained within the GEBCO Digital Atlas, published by the BODC on behalf of IOC and IHO (2003) (<https://www.gebco.net>)

海上保安庁許可第292502号(水路業務法第25条に基づく類似刊行物)

Shoreline data is derived from: United States, National Imagery and Mapping Agency. "Vector Map Level 0 (VMAP0)." Bethesda, MD: Denver, CO: The Agency; USGS Information Services, 1997.

写真: (左下左上) 鶴岡市教育委員会 海洋教育副読本 (右下右上) 港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小中学校
「もっしえぜ! つるおかの海・川・里・山」 (右下右中) 北海道標津高等学校
(左下左下) 大牟田市立天領小学校 (右下右下) 洋野町立中野小学校

p.3 写真: (左下) 玄海町教育委員会 海洋教育玄海子どもサミット

p.4 写真: (左下) 2026年2月23日 海洋教育研究会シンポジウム2025「海洋教育パイオニアスクールの歩みと、共創する海洋教育の未来」
(中上) 2026年1月23日 海洋教育研究会サンセットトーク第36夜 音声配信 (右下) 2026年2月13日 全国海の学び発表交流会2025

p.5 画像: (左下) 「理科の学びを海につなぐ」表紙 (中右下) YouTube動画【イカ動画シリーズ イカを知ろう!】サムネイル

p.6 写真: (左下) 上段2025年8月5日 AMEA with ECOPs Ocean Literacy Conference 2025 Japan(笹川平和財団ビル)
2段目左から徳島県立小松島西高等学校、岡山学芸館高等学校、三重中学校
3段目左から立命館慶祥高等学校、対馬市立佐須奈小学校
下段左からリンデンホール中高等学校、豊見城市立とよみ小学校
(中下) IPMEN 2025 Conference(國立中山大學海洋科學學院) (中下) APEC Workshop(海沧湾九号岬)

p.7 画像: (左下) 「未来クリエイター」教材表紙

p.8 写真: (右中) 2025年11月20日 全国小学校理科研究協議会全国大会 愛知大会

p.9 写真: かえつ有明高等学校

※一部写真は、プライバシー保護のための人物マスキング処理、および画質補正のための高解像度化処理等を行っています。

海洋教育パイオニアスクールプログラム
レポート2025 VISION & ACTION

2026年7月10日

海洋教育パイオニアスクールプログラム事務局

▶ <https://www.spf.org/pioneerschool/>

公益財団法人 笹川平和財団 海洋政策研究所

▶ <https://www.spf.org/>